



「第三の居場所」

日本財団が取り組んでいる「子どもの第三の居場所」はご存じでしょうか？「日本財団子どもサポートプロジェクト」の1事業で子ども達の居場所作りの支援をしています。一時期は子ども食堂に注目が集まり、ニュースなどでも取り上げられていましたが、「子どもの第三の居場所」は、様々な形での居場所作りをサポートする取り組みになります。日本財団のホームページを見ていると「子ども支援」「障害児（者）支援」にとっても力を入れているのが分かります。この国の礎としての子ども支援には共感出来る内容がたくさんあるので、時々ホームページを確認しながら見識を広げています。

日本財団子どもサポートプロジェクト

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/child_support

「子どもの第三の居場所」は、貧困などの特別に支援が必要な子どもに向けた話ではなく、全ての子ども達に共通の事だと捉えています。私たちが運営をしている児童発達支援や放課後等デイサービスも実はその様な側面があります。

子ども達の生活の中では家庭や学校（保育園・幼稚園）が一日の中で8～9割を占めています。私たちの事業所に居る時間は残りの1～2割です。その中で、子ども達の発達支援をしているのですが、1割2割の活動時間の中で取り組む事が出来る範囲は限られています。

もちろん、事業所の活動の中で何か特別な力が付けば良いのですが、それと共に、

- 学校や家庭での取り組みに新しい視点でアプローチをする
- 何かに取り組む・挑戦をするきっかけになる
- 成功体験の中で自信になる
- 自分自身の事に気が付く（良い部分もそうでない部分も）
- 親でも先生でもない斜め上の関係性
- 自分の事を知ってくれている大人や仲間がいる

上記の様な体験や関係性作りが重要と考えています。

学校（保育園・幼稚園）でも家庭でもない、違った視点で子どもを観る事で、その子の新たな側面に気が付く事が出来て、それが子どもの自信に繋がっていく…

私たちの事業所もその様な「子どもの居場所」を目指しています。

児童通所課 嵯峨憲司



にじいろ狭山活動紹介



7月18日(月)の祝日プログラム

エントランスでは水の流れる音、風で木々が揺れる音など自然の中のような映像と音楽でのお出迎えです。プロジェクターで映し出される大きな画面を不思議そうに眺める子ども達。さあ、「チームラボにじいろ」のスタートです。3つのブースを順番に回ります。まずは一つ目のブース、サイバーホイールのトンネルをくぐってアクアリウムにじいろへ、壁面を泳ぐ光の金魚をのんびり眺めて過ごしたら、次のブース、プラネタリウムコーナーで、星をキャッチしてみます。最後のらたんコーナーでは40個のランタンがお出迎え。さまざまな光が作り出す幻想的な世界を楽しむ一日となりました。

にじいろ入間活動紹介

にじいろ入間では、7月18日の祝日プログラム「にじいろ入間夏祭り」を行ないました。今回は児童発達のお子様達を対象に行なっています。放課後デイのお子様は、出し物の店の担当をしてお手伝いをしてくれました。また、8月には放課後デイのお子様を対象に8月17・18・19日に夏祭りを予定しております。夏祭りを皆で楽しみたいと思っておりますのでご参加お待ちしております。



教材紹介

～教材名～ トランポリン



全身を使った有酸素運動です。

断続的な足底への圧迫、上下運動での感覚刺激などから

- ・筋肉や関節へのこちよい刺激を感じる。
- ・空間的位置関係を認識する。把握する。(バランス感覚)
- ・安定した姿勢を保とうとする。(体幹を鍛える)
- ・複数の感覚情報を取り入れ調整する力を育てる。
- ・リラクゼーション。
- ・情緒の安定。
- ・学習につながる見る力の獲得。

など子ども達それぞれのねらいに合わせて飛び方や楽しみ方を工夫して活動することが出来ます。

何よりも子ども達はトランポリンが大好き！目を輝かせ！汗をかきながら、積極的に活動に参加しています。

